



## CROI 2017 参加報告書

千葉大学医学部附属病院感染症内科・感染制御部

谷口俊文

私にとってサンフランシスコで2010年に行われたCROI以来、7年ぶりの参加となりました。この貴重な機会をいただき、アメリカ留学中の恩師である Tuner Overton、David Clifford を始めとする HIV における臨床研究の最前線を走る諸先生方と情報交換を行うことができました。Overton 先生は HIV 感染者における代謝合併症の第一人者で過去には骨粗鬆症の研究で活躍しました。現在は今回の CROI でも話題になった REPRIVE 試験 (<http://www.reprivetrials.org/>) の主任研究者の一人として活躍されております。また Clifford 先生は HIV-Associated Neurocognitive Disorder (HAND) を中心に研究されており、有名な CHARTER 試験の研究者の一人でもあります。本邦でも国立国際医療研究センターの木内英先生を中心として、J-HAND という日本人における HAND の疫学研究を平成28年度の日本エイズ学会で発表されたばかりですが、私が所属する千葉大学医学部附属病院も本試験に参加し、私の関心の強いところでもあります。Clifford 先生とはこのデータなども含めて、この機会に有意義なディスカッションをさせていただきました。

さて CROI 2017 では HAND における研究成果は残念ながら斬新なものは見られませんでした。Abstract#381 の Cenicriviroc (CCR2 と CCR5 の阻害剤) にて HIV の治療を強化すると認知機能が改善する、など口頭発表はありましたがあまり実用的ではない印象を受けました。同じセッションの Abstract#380 では早期 cART 導入は認知機能を改善するというデータも発表されましたが、世界的に cART を早期導入する流れを裏付ける研究の一つだと思います。Abstract#384 では EFV の代謝が早いことが認知機能障害のリスクとなるデータを示し、EFV の代謝産物がなんらかの増悪因子となっているかもしれないと結論づけ、会場が若干盛り上がりました（プロジェクトがうまく機能しなかったが発表者がうまく説明したところも盛り上がりの一つでしょうか）。日本では EFV の使用が少なくなっていると思われませんが、海外ではまだ主役として使われている国も多く、関心は高そうです。

CROI で最も印象に残ったシンポジウムの発表は Charlie Flexner による long-acting ART の話でした。現在は Single Tablet Regimen (STR) で1日1回1錠服用が可能とな

り服薬が簡単になってきましたが、これからはどんどん長時間作用型の ART が開発される可能性を発表されました。避妊薬は 3 ヶ月に 1 回注射するデポ製剤や 3 年間効果を保つインプラント型など実用化されていますが、これと同じような手法を使って cART の注射製剤が実用化されるかもしれないということ、また PrEP も同様の手法でできるかもしれないということです。一部の注射製剤は日本を含む世界で臨床試験中ですが、こうした製剤の開発競争が始まることにより、将来的には HIV 感染者は毎日薬を飲むという煩わしさから解放されて、数ヶ月に 1 回注射を受けるだけの時代が来るかもしれないということで、期待が高まります。

このように CROI 2017 では大変刺激を受けてきました。今後の HIV 診療と研究に本学会参加により得た知識や経験活かしていきたいと思えます。